

中間貯蔵工事情報センターは、
中間貯蔵事業情報センターに名称を変更し、移転オープンしました！

中間貯蔵事業の進捗や規模感を視覚的に伝える展示などにより、中間貯蔵事業、除去土壌等の再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島の復興・環境再生の取り組みを発信するための施設として、「中間貯蔵事業情報センター」が2025年3月15日、大熊町のCREVAおおくまに開所しました。



現地の見学では見ることができない施設や場所を没入感のある映像で疑似体験できる

「バーチャルシアター」

館内には
10のゾーンを
用意



中間貯蔵施設を受け入れていただいた大熊町・双葉町の方の想いに触れることができる

「ふるさとへの想い」

各種見学会受付中
詳しくはホームページへ

中間貯蔵事業情報センターでは、館内を自由に見学いただけるほか、案内ガイド付のコースも用意しています。また、実際に現地を見学する「中間貯蔵施設見学会」や「飯館村長泥地区環境再生事業見学会」も開催しています。

中間貯蔵事業情報センター

- 開館時間 9：00～17：00（最終入館16：30）
- 休館日 火曜日、年末年始（祝日の場合は翌平日）
- 入館料 無料
- 所在地 福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番5
CREVA おおくま（大熊町産業交流施設）1階
- 電話番号 0240-25-8377

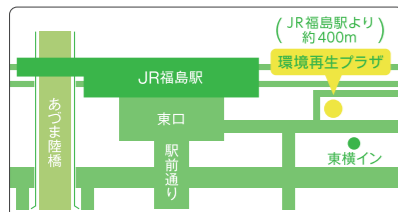
ホームページは
こちらから



環境省の情報発信拠点

見学会やイベント等の詳細につきましては、各施設にお問い合わせ下さい

● 環境再生プラザ



福島の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

- 所在地 福島県福島市米町1-31 1階
- 開館時間 10：00～17：00
- 休館日 月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合は翌平日）
- 電話番号 024-529-5668



● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

- 所在地 福島県双葉郡富岡町大字上郡山字太田526-7
- 開館時間 9：00～17：00
- 休館日 月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合は翌平日）
- 電話番号 0240-23-7781



ふくしま環境再生 Vol.34



福島市立月輪小学校の児童たち

「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

東日本大震災と原子力発電所の事故から14年が経過し、震災後に生まれた世代が育っています。環境省では、未来を担う子どもたちが、福島で起きたことや放射線のことについて、自分の言葉で思いや考えを伝えられるよう、学校と連携して放射線教育の取り組みを支援しています。

特集

対話を通して地域の今と想いを伝え合う

福島と滋賀の子どもたちのオンライン交流会

「知ってもらおう福島の今」

福島県内の小・中学校では、年間2時間程度の放射線教育が実施されています。環境再生プラザでは、学校の要望に応じて、学習教材の提供や専門家による放射線に関する出前授業、授業のサポートなどを行い、児童生徒が放射線や福島の環境再生について主体的に学び、理解を深めるお手伝いをしています。

令和5年度に放射線教育推進校(*)の指定を受けた福島市立月輪小学校では、児童たちが震災からこれまでのことや放射線について学びを深め、自分の思いや考えを発信するために、環境再生プラザと連携しながら、学年ごとにさまざまな方法で学習に取り組んできました。

2年間の学習のまとめとして、令和7年2月に同小学校の6年生16名と滋賀県守山市立河西小学校の6年生156名をオンラインでつなぎ、「知ってもらおう 福島の今」をテーマに対話をする交流が行われました。



環境再生プラザを訪問する児童



月輪小学校(左)と河西小学校(右)の代表児童



代表児童によるあいさつ

両校の代表児童のあいさつで交流会がスタート。互いの学校や地域を紹介しました。

福島の児童による発表

月輪小学校の児童たちが、これまでに学んだことから、他の県の小学生に伝えたい福島の課題をそれぞれの班で見つけ、考えをまとめました。より良い発表にするために意見を出し合い、準備してきたことを発表しました。

● はじめに

福島ってどんなところ



- 大変なことがあったけれど、皆さんの協力で元に戻つつあります
- 福島の今を一緒に考えてほしいです

● 伝えたいこと(1班)

放射線のこと、東日本大震災のこと



- 事故前から、私たちは自然界からの放射線や人工の放射線を日常生活で受けています
- なぜ事故が起きて、暮らしがどうなったか、どこまで放射線が広がったかを話します

● 伝えたいこと(3班)

除染で出た土の再生利用



- 全国からたくさんの方が来て、放射線量を下げための除染に協力してくれました
- 除染の方法、除染で出た土の量、中間貯蔵施設について紹介します

● 伝えたいこと(2班)

除染の大変さとたくさんの人の協力



- 除染で出た土は、2045年3月までに県外で最終処分することが決められています
- 最終処分する量を減らすために、再生利用の実験が進められています

滋賀の児童からの質問や感想

河西小学校の児童たちから質問や感想がたくさん出ました。「放射線の線量計は滋賀県に何か所ありますか？」などの質問に、月輪小学校の児童たちがその場でタブレットを使い、答えを調べて、一つひとつ丁寧に答えました。



やりとりをする両校の児童

Q. 放射線の線量計は福島県に何か所ありますか？

A. 福島県内には約3,600か所あります。

Q. 温泉に含まれる自然放射線の量はどのくらいですか？

A. 日本のある温泉では1時間あたり約2マイクロシーベルトです。

Q. レントゲンに人工の放射線が使われていますが、何回撮ったら影響がありますか？

A. 回数ではなく受ける量の合計によります。

Q. 津波被害にあった原子力発電所は今どうなっていますか？

A. 廃炉作業が進められています。

Q. 除去土壌を入れたフレコンバッグは使用後どう処理されますか？

A. 土を分別してから焼却処理などをします。

etc.



答えを調べる児童



フレコンバッグの実物サンプルを紹介

交流会を振り返って

— 福島市立月輪小学校 —

両校児童の感想

— 守山市立河西小学校 —

発表は緊張したけど、伝わってとてもうれしかった

河西小の皆さんからたくさんの質問や反応をもらえてとても楽しかった

月輪小の皆さんのスライドが、写真や図、例えなどを使ってとても分かりやすかった

原発事故や放射線について初めて知ることができた

少しでも放射線や福島のことを知ってもらえて良かった

夏から何時間もかけて発表の準備をしてきたので、聞いてもらえてうれしい

日本で起こっている問題について考えるいいきっかけになった

福島に行ったら、実際に見て確かめて、これからも一緒に支えあっていきたい

これからも伝えていきたい

困ったときや問題が起きたときはお互いに協力して助け合いたい

福島県ばかりが処分する責任を持つのではなく、他の都道府県も濃度の低い土壌の再生利用に協力したりなどして、国内の人々が協力していけば、この問題は解決できると思う

先生方へのインタビュー



震災を経験していないからこそ見えてくるもの

福島市立月輪小学校 佐藤 智子 先生

子どもたちは震災後に生まれているので、他の県の子どもたちと同様に何も知らない状態から始めました。授業で調べたり、専門家に教えてもらったりして学んだことに加え、自分たちの思いをしっかりと伝えようと話し合いました。

交流会では伝わったという達成感とともに、滋賀の子どもたちが事前学習を通して、自分たちが滋賀を知っているよりも福島のことを知ってくれているということが分かり、自分たちももっと頑張らなくてはと感じたようです。

震災を経験していないからこそ、「福島って頑張っているね」「同じことが起こった時に、今度は自分たちが助けになれるかもしれない」と素直に考え、見えてくるものがあったのだと思います。



異なる環境に触れ合うことで大きな刺激に

守山市立河西小学校 堀 道雄 先生

福島の小学校との交流、そこが良いと思いました。その県にも興味湧くことになるし、子どもたちが生まれる前に起こった東日本大震災でどのようなことがあったかということは、防災教育のうえで大事な視点だからです。

交流会で子どもたちは自分たちなりに感想を持ち、止まらないくらい質問が出ました。国の中でも全く異なる環境があり、触れ合うことで大きな刺激になると感じています。

震災や原発事故のこと、そして現在ある状況を知るということは、子どもたちにとって決してよそ事ではありません。子どもたちが大人になるまで続いていく問題ですから。そういう面ではすごく、キャリア教育的な意味があったのではないかと思います。

(*) 放射線教育推進校とは 福島市教育委員会の防災・放射線教育推進事業の一環として、学校における防災・放射線授業の2年間の実践研究や公開授業などに取り組みます。平成26年度から令和6年度まで、18校が福島市の放射線教育推進校に指定されています。